

特集 ■ 高齢化とリハビリテーション

わが国では超高齢社会を迎え、高齢者に対するリハビリテーションの重要性がますます高まっています。高齢者にはさまざまな機能障害が重複しやすく、リハビリテーションを進めるためには高齢者の特徴を理解したリスク管理の徹底が重要となります。今回の本特集では、加齢とともに増悪する機能障害のうち、筋力低下、内部障害、嚥下障害および精神の障害を取り上げ、高齢者に対するリハビリテーションに役立つ知見をご解説いただきました。

■高齢者の特徴（秋下雅弘氏，1033 頁）

高齢者の疾患・病態上の特徴を概説し、高齢者に対する医療提供における問題点を挙げた。現状での最善策は、病態だけでなく生活状況におけるニーズに対して包括的な治療目標を設定し、これらの治療の優先順位を決めて段階的に実施することである。高齢者に求められる医療を適切に提供するためには、高齢者治療の知識とスキルを実践する必要がある。

■筋力低下（池添冬芽氏，1039 頁）

加齢に伴う筋力低下には神経的要因とタイプII線維の選択的萎縮が大きく影響し、筋力低下率は上肢よりも下肢に大きいため起居移動動作能力が低下する。筋力トレーニングの強度は、筋骨格系損傷や循環器疾患リスクを考慮して低強度から中等強度が推奨される。下肢筋力が比較的強い高齢者には体幹の筋力トレーニングが歩行能力の向上に有効である。

■内部障害（作山晃裕氏ら，1047 頁）

加齢により有病率が増加する内部障害には、呼吸器疾患、心疾患、腎疾患があり、これらは高齢者に重複して存在することが多い。本稿では、肺疾患と心疾患の重複例、および心疾患と腎疾患の重複例に対するリハビリテーションについて、運動療法を中心に解説した。運動処方における運動強度や運動様式は、各疾患の重症度を考慮して個別に選択する。

■嚥下障害（海老原覚氏ら，1053 頁）

著者らの病院では、高齢者を多く含む入院患者全員に嚥下障害のスクリーニングを担当看護師が行い、嚥下障害が疑われる患者には多職種からなる「嚥下障害対策チーム」と連携し、嚥下訓練とともに、経口摂取開始や食形態変更を進め、退院支援を行っている。言語聴覚士だけに頼らない、看護師を中心としたチーム医療による効率的な取り組みを紹介した。

■精神の障害（石川博康氏ら，1059 頁）

高齢者によくみられる精神の障害には、うつ、認知症、せん妄があり、これらはリハビリテーションを阻害することが多い。リハビリテーションに難渋した自験例を提示しながら、リハビリテーション処方に必要な配慮や、リハビリテーションを阻害する精神症状に対して薬物療法を行う際の倫理的ジレンマを軽減し得る方略について概説した。

ニュース

医療、介護などの情報一元化し活用—総務省報告書…1046 介護保険、566 万人が利用—6 年連続で最多（2013 年度）…1046 子と同居希望 27%—高齢期の意識調査（厚生労働省）…1052 パラ競技体験イベント、東京大会向け本格的に始動…1057 病室に星空再現、重症心身障害者ら満喫—国立甲府病院でプラネタリウム…1064 重度障害児医療費窓口無料案を否決—9 月定例会…1069 県が在宅看護マニュアル—重症心身障害児ケアの要点まとめる…1070 介護の離職率 16.6%に低下—安定センター調査…1093 ノーマライゼーション・障害者の福祉 9 月号特集目次…1093

お知らせ

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会…1046 第 4 回日本リハビリテーション栄養研究会学術集会 in 名古屋…1070 第 4 回日本がんリハビリテーション研究会…1070 平成 26 年度社会リハビリテーション研究会公開研修会…1075 呼吸機能検査研修会 第 21 回琵琶湖セミナー…1086